

一般財団法人 前田二歩園財団
理事長



前田 三郎
SABURO MAEDA

今 春、鶴雅グループ様が創業60周年を迎えられた由、幾多の苦難を乗り越えて今日の活力あふれる企業グループに育て上げられた泉下の大西正昭ご夫妻、現社長をはじめ、構成員の皆様、とくに長年勤務して来られた従業員の方々の感慨はいかばかりかと察し、心からお喜び申しあげます。

初代の故大西正昭ご夫妻が阿寒湖畔において株式会社阿寒グラントホテルをオープンされたのが昭和30年のこと。昭和30年代といえば、我が国の戦後の復興がようやく緒について、東京オリンピック（昭和39年）を視野に入れるほど国力が上向いて来た頃で

あったと存じます。当事の阿寒湖畔の状況について見ますと、知名度を高めつつあった「マリモ」が国の特別天然記念物に指定され（昭和27年）、天皇様、皇后様が阿寒湖に来られ、「マリモ」の生態を御覧になられ（昭和29年）、釧路-阿寒湖-帯広間の国道の整備（特に除雪などの機能が拡充）がされ（昭和32年頃）、アイヌ文化や熊彫りなどの人氣が高まりつつあり、加えて前田二歩園の3代目園主 前田光子氏が、土地の貸付、温泉の開発などを通じて、地元観光の発展に寄与するなど道内はもとより阿寒湖の観光も順風の時代であったと存じます。

「二歩園の奥さん」（前田光子氏の湖畔における愛称）が亡くなられ、ワタシが前田二歩園財団2代目理事長に就任したのが、昭和58年（1983年）でございます。それまで続いた好況が大きく変わりはじめたのは、まだ記憶にあらしい「異常」とも思われた「土地バブル」が、例の金融機関に対して行われた行政指導「総量規制」により一気に弾け（平成2年）、拓銀や山一証券の破綻（平成9年）もあり、道東阿寒湖畔の観光事業も「入り込み減少」など大変な痛手を受けております。

は、独り、隆々と業績を伸ばしております。ワタシは常々、鶴雅グループの仕事振りを拝見して思うことは、「商売は競争である」、「優れたものは勝ち、劣る者は敗れる」というのが「商」の鉄則であり、当然であると思うのですが、鶴雅グループ大西社長の手法を拝見していると、「敗者にも再生への手を差し伸べる」という暖かい心遣いが見て取れるのでございます。「二歩園の奥さん」が私に言った言葉を憶えています。「阿寒湖の子どもに悪いのはいいよ」と[※]。筆を擱くに当たり、鶴雅グループ様の益々の奮斗と繁栄を御祈念申し上げます。

[※] 大西社長は阿寒湖生まれ

創

業60周年を迎えられましたことを心よりお祝いを申し上げます。60周年にあたり、心から懐かしく思い出すのは、私に人生の歩みを教えてくれた尊敬すべき大先輩、先代創業者故大西正昭様の事です。先代は28歳の若さで夢を築く決意で当地に来られました。お供はまだ若い書生さんで、泉さんと呼ばれていました。当時は阿寒湖は町内ごとに班に分かれ、この地域は六班と呼ばれこの辺には10程度程度の民家が点在していました。当時私の家はお袋の仲間仕事でキャンプ場の薪を売ったり簡単な雑貨やおみやげ品などの販売をする小さな店を営んでいました。当時の先代の印象は心の座った肝の太い人、話をする時も相手の眼を見て話す、28歳には見えない威厳を感じました。当時私は先代の眼見て話すのが大変苦手だったのを覚えています。

先代大西正昭社長はホテル開業に体を張って専念され私の家の空き小屋に寝泊りされていました。当時の家ですから屋根裏から星が見える様な家でした。工事が一段落した時には焼酎を交わしながら工事の皆さんと歓談をされていた光景を今でも思い出します。

昭和27年にマリモが特別天然記念物に指定、でも北海道観光はまだまだ発展途上です。大変な苦勞と努力の中で初代阿寒グラントホテルが開業されました。けして順風とは行かなかった時代です。大変な努力をされ今日の基礎を築かれた事には心より敬意を表し私の心の学びと成っています。今此処にあの頃の光景を思い出します、優しくったお母さん（故、茂子女将さん）が先代社長の手をとりながら散歩の途中、僕が小走りに出かけようとしていたら「またサボって遊びに行く」と、笑いながら

声をかけられました。本当に懐かしい思い出です。

昭和61年頃から北海道ブームに湧き上がり、平成2年頃はバブル最盛期右肩上がり、いつまでも此の豊かな状況が続くものだと思いが信じていました。国会でもリゾート法が施行され、道内各地でホテルや地域の環境整備に力を注がれました、豊かさも伴って、本州の各地から北海道観光に多くの方が訪れました。しかしこのブームも永くは続かなかった。平成7、8年にはバブルは崩壊して阿寒湖も110万人の宿泊者数あったのが今では60万人を切る状況に至ってしまいました。先代の想いと志を継いで大西雅之さんが帰ってきました。現社長大西雅之様の描く理念と斬新なアイデアで、その地域に一体化した観光ホテルとして、お客様の要望と満足度を常に考えられたホテルを次々とオープンされ、今

や鶴雅グループは12の関連企業体へと躍進されました。不景気な時こそチャンスは有るものだ、大西雅之社長様の心の強さでしょうか、その精神力と努力が現在の鶴雅グループだと思えます。大西社長様はNPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構の理事長に就任され、今の状況では北海道観光は他の観光地から遅れをとってしまう危機感を抱き、阿寒湖温泉を再生する為に、地元住民の意識改革を図り卓越したご指導力によって今に至りましたこと、心から敬意を表します。改めて先代社長様より60年間の長きにわたってお付き合いを頂き心より感謝をいたします。私にとって同じ時代を歩んで来られたことを心より嬉しく思います。今後とも貴社の益々のご躍進を心よりお祈り申し上げます。この言葉と致します。

阿寒湖温泉連合町内会 会長
有限会社 長井商店
代表取締役社長



長井 清
KIYOSHI NAGAI